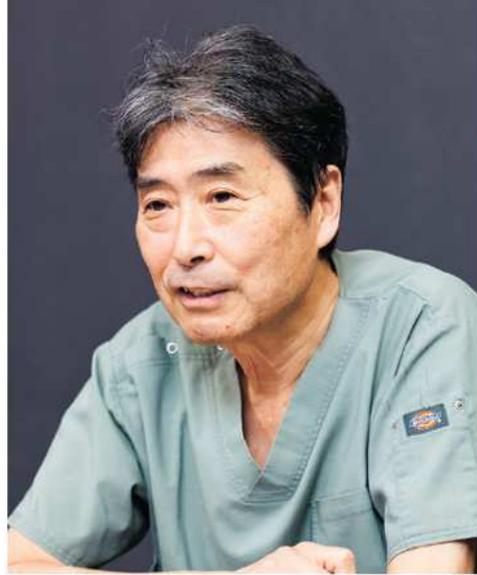


大分合同新聞
令和7年新年特別号
新春医療機関インタビューに
深野理事長が掲載されました



中津胃腸病院 理事長
深野 昌宏氏

院内改革で地産地消の病院食

自身は現場に立ちつつ病院の運営と経営面に注力し、藍澤哲也院長が診療に専念する体制を取っている。「2024年はこの分担当が軌道に乗って落ち着いている。内視鏡検査や肛門疾患の診療をしており、消化器の外来患者が増加しているという。」

24年春からは消化器内科の常勤医師も配置した。今年も増員を計画しており、消化器系疾患に対応した地域病院づ

くりに取り組んでいる。理学療法士や言語聴覚士も増員し、リハビリテーションの充実も図った。

地域包括ケアの一環として、在宅診療にも力を注ぐ。24年春に立ち上げた訪問看護ステーション「いちよう並木」は、看護師4人と事務員1人で編成している。訪問診療の部門と連携することで、「在宅診療の機能強化を目指す」と意気込む。



食を通して地域への恩返し

病院DATA

●診療科目

外科、消化器外科、内科、消化器内科、肛門外科
リハビリテーション科、疼痛緩和内科
麻酔科(深野昌宏・滝口哲)

●診療時間

平日/9:00~12:00、14:00~17:30
土曜/9:00~12:00

●休診日

土曜午後、日曜、祝日
※急患の方はこの限りではありません

医療法人社団
中津胃腸病院

中津市大字永添510番地
TEL0979-24-1632
<https://n-icho.or.jp>



院内改革は病院食でも進めた。厨房は従来の業者委託から病院直営に切り替え、管理栄養士をはじめとしたスタッフを雇用した。

地産地消の食材にこだわり、中津市内のプロの料理人を招いてメニューや調理方法を一から見直し、環境改善に取り組んだ。発案者である甲斐一弘事務長は自ら厨房に入り、調理にも携わっているという。

「医食同源。直営は人事や管理面など難題が多かったが、劇的に変化した。思い切って導入して良かった」と満足そう

う。手作り感あふれる食事は患者に好評で、「食べ残しが以前と比べて1日当たり約10%減少した」と説明する。

さまざまな業界で人手不足が深刻化する中、看護師の確保が大きな課題だと捉えている。「人あつての病院。積極的な人材発掘に向けて努力を重ねている」と語る。

今年が開院から45年の節目に当たる。「5年先を見据え、外来機能の強化やスタッフの確保、懸案の新病院建設なども率先して取り組んでいきたい」と、前を見据えた。